

加西市のまちづくりのガイドライン

議案第14号 第6次加西市総合計画（基本構想・基本計画）の策定について

「第6次加西市総合計画」（令和3～12年度）は、加西市のまちづくりの基本となる最上位の計画です。これまでの課題への対応に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による新たな生活様式に対応したまちづくりが求められている中、社会や環境の変化に対応しつつ、市民との協創のもとに、新たな計画を策定するものです。全議員で構成する総合計画審査特別委員会（原田久夫委員長、丸岡弘満副委員長）を設置し、計画に示された、今後、市が取り組む38項目の施策等について慎重審議を行いました。

◆質 疑

施策1 結婚・妊娠・出産支援の充実

問 まちづくりの主な指標として、合計特殊出生率が令和7年に0.55さらに令和12年には0.27上昇し、将来的に子供が増えていく目標としているが、もっと思い切った施策を実施しないと達成できないのでは。

答 令和3年度から高校3年生までの医療費無料化、屋内型遊戯施設やテレワークセンターの整備、また未来型児童館の整備構想等があり、子育てしやすい市としてさらにPRしたいと考えます。



施策5 教育環境の充実

問 小中学校の在り方、再編統合の検討という流れと老朽校舎の改修は矛盾し、さらにコストもかかるのではないかと。

答 学校の在り方を検討する中で効率的な整備について今後議論される可能性はありますが、方向性が定まっていない現時点では、老朽化する学校をしっかりと整備しながら維持管理し、学校環境を整えます。

施策7 生涯学習の充実

問 今後高齢者が増え、仲間づくりや様々なことに興味を持って活動することは非常に重要であることから、さらなるソフト面の充実、定年後の学び直し等の取組、生涯学習の在り方は。

答 公民館では今、地域づくりがうたわれており、それを含めた仲間づくり、地域とともに人づくりをしていきます。



施策8 芸術・スポーツの振興

問 こども狂言塾や加西能などの活動促進は大切だが、郷土愛の醸成や伝統の継承という意味で、加西市発祥の播州歌舞伎を継承し、発祥の地として取り組むことが必要では。

答 播磨国風土記事業においては、まず播磨地域との連携ということで三木市や姫路市と連携してきましたが、今後は播州歌舞伎とこども狂言塾との連携等の検討も大切と考えます。



施策12 保健・医療体制の確保

問 加西病院の近隣病院との連携や方向性は。

答 加西病院で治療できる方はそのまま治療し、高度急性期で直ちに手術等必要な方は、北播磨総合医療センター、加古川中央市民病院、（仮称）はりま姫路総合医療センターの3拠点病院を紹介し、手術が終わり回復期に入られたら加西病院でケアをする回復期を中心としたサテライト病院としての役割を担い、外来として総合医療の充実を図ります。



施策13 農業従事者の確保と育成

問 6次産業化の状況と課題について。

答 市内農家において、自ら生産する農作物で商品開発に取り組んでいる組織はあるものの、加工ができる農家が少なく、今後の課題として、一軒の農家で6次産業化を進めるのは設備投資も大きいと、市内加工業者等との連携などが図られるよう支援していきます。



施策16 商工業の振興

問 デジタル化によって物事が大きく変わる中でも、引き続き、加西市のものづくりを将来につなげていく支援が必要では。

答 ITへの流れの中、中小企業支援メニューを作ってきましたが、加えて今後急速に来るであろう、脱炭素社会の流れに対応する支援も考えていきます。